

かながわの水がめ

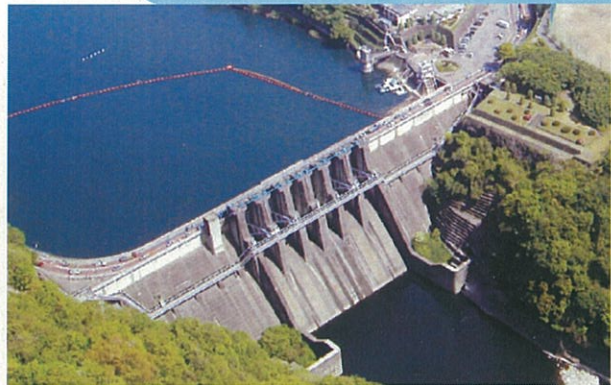
相模川、酒匂川には相模湖、津久井湖、丹沢湖、宮ヶ瀬湖の4つの水がめがあります。
水没地域の方々のご理解とご協力により生み出されたこれらの水がめがあることで、
多くの県民の皆様に、年間を通して安定的に水を届けることができます。

- 相模ダム沿革：相模ダムは、昭和13年に横浜市、川崎市などの京浜地帯の人口の増加や工業の進展に伴う水道用水、工業用水及び電力需要の増大に対応するため計画され、戦中・戦後の混乱の中、物資や労働力の不足など幾多の困難を乗り越えて、昭和22年に完成しました。建設に係る費用は県の電気事業によって賄われました。
- 相模ダムの形式：重力式コンクリートダム
- ダムの高さ：58.4m
- 総貯水量：6,320万 m^3
- 開発水量：当初 144万 m^3 /日 (16.65 m^3 /秒)
現在 116万6,400 m^3 /日 (13.49 m^3 /秒)
- 発電：最大出力3万1,000KW (相模発電所)
最大出力1万2,500KW (津久井発電所2号機)
- 水没戸数：136戸
(完成当時の県の総人口：222万人)
- 城山ダム沿革：昭和30年代後半から始まった高度経済成長により、県内の水需要は飛躍的に増大しました。この状況に対処するため、県、横浜市、川崎市、横須賀市が共同して城山ダムの建設を中心とする相模川総合開発共同事業を計画し、昭和40年に完成しました。
- 城山ダムの形式：重力式コンクリートダム
- ダムの高さ：75.0m
- 総貯水量：6,230万 m^3
- 開発水量：129万6,000 m^3 /日 (15.00 m^3 /秒)
- 発電：最大出力25万KW (城山発電所)
最大出力1万2,500KW (津久井発電所1号機)
- 水没戸数：280戸
(完成当時の県の総人口：443万人)

相模湖 (相模ダム)



津久井湖 (城山ダム)



丹沢湖 (三保ダム)



宮ヶ瀬湖 (宮ヶ瀬ダム)



- 三保ダム沿革：昭和40年代の更なる水需要の増大に対応するため、初めて酒匂川に水源を求め、三保ダムを基幹施設とする酒匂川総合開発事業を計画し、昭和53年に完成しました。
- 三保ダムの形式：土質しゃ水壁型ロックフィルダム
- ダムの高さ：95.0m
- 総貯水量：6,490万 m^3
- 開発水量：180万9,500 m^3 /日 (20.95 m^3 /秒)
- 発電：最大出力7,400KW (田ノ入発電所)
- 水没戸数：223戸
(完成当時の県の総人口：675万人)
- 宮ヶ瀬ダム沿革：21世紀に向けて水道水を安定して供給するため相模川水系中津川において国が宮ヶ瀬ダム建設事業を計画し、平成13年に完成しました。宮ヶ瀬ダムの完成により、既設の相模ダム、城山ダムと連携して効率的に水を使用しています。
- 宮ヶ瀬ダムの形式：重力式コンクリートダム
- ダムの高さ：156.0m
- 総貯水量：1億9,300万 m^3
- 開発水量：130万 m^3 /日 (15.05 m^3 /秒)
- 発電：最大出力2万4,200KW (夙川第1発電所)
最大出力1,200KW (夙川第2発電所)
- 水没戸数：281戸
(完成当時の県の総人口：853万人)